後村上天皇編旨

乙卯七年

WA 47
7

寶玲圖書

国立国会図書館　タイトル『[正平七年綸旨]』 請求記号 WA47-7

後村上天皇編旨

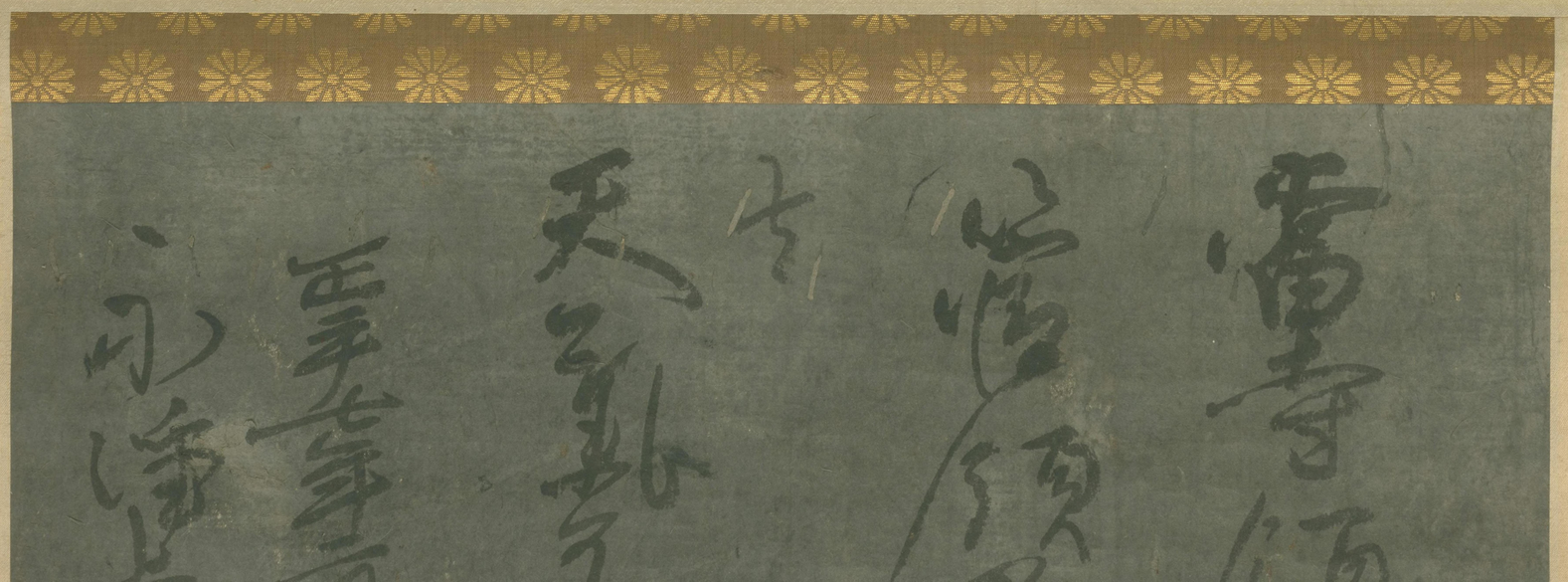
正平七年

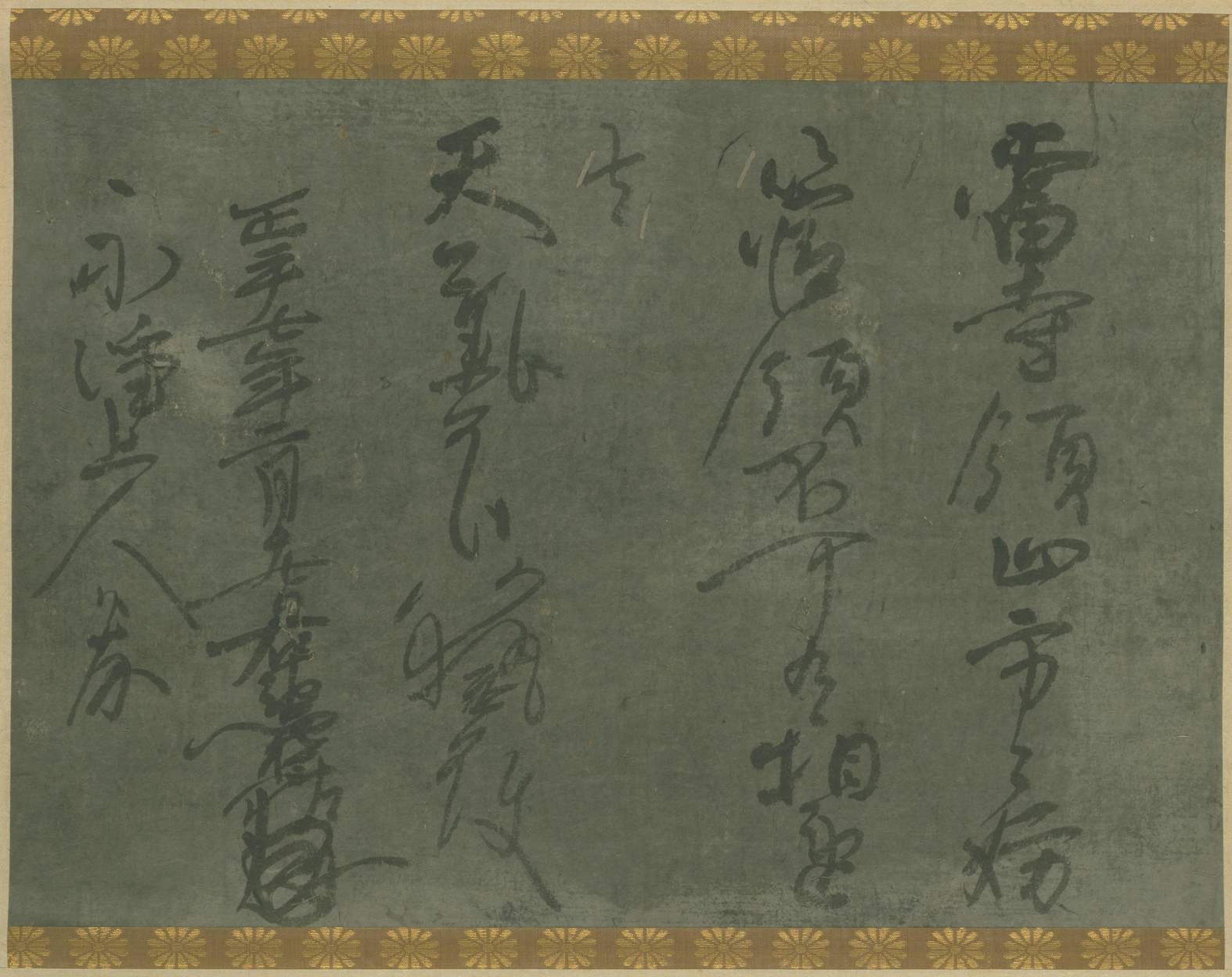
WA 47
7

貴重図書

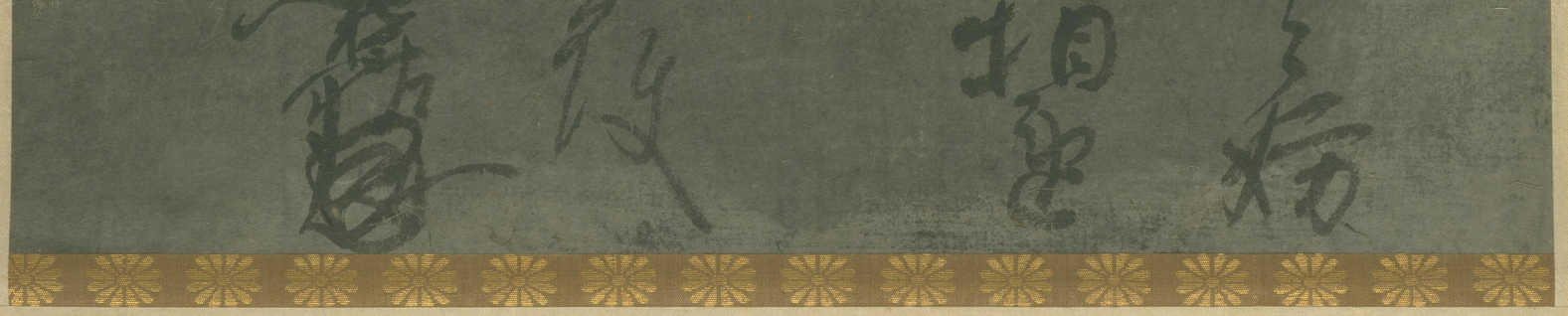
国立国会図書館　タイトル『[正平七年綸旨]』 請求記号 WA47-7

国立国会図書館　タイトル『正平七年綸旨』請求記号 WA47-7





国立国会図書館　タイトル『[正平七年綸旨]』請求記号 WA47-7



国立国会図書館　タイトル『正平七年綸旨』請求記号 WA47-7

国立国会図書館　タイトル『[正平七年綸旨]』請求記号 WA47-7

大正
13.12.15
購求

正平綸旨考料

葉室光資卿
奉書

光顯傳書 父子勅書
凡五十余年
掃々不入手
[illegible]
[illegible]

貴陳1

国立国会図書館　タイトル『[正平七年綸旨]』 請求記号 WA47-7
ガラス使用

西山三鈷寺旧蔵　後村上天皇綸旨考料

當寺領山方ニ妨管領不可有相違者

天氣如此依執達如件

正平七年二月十七日　右衛門權佐 花押

示淨上人御房　本紙宿紙

此時代右衛門權佐ニ任セシ人如何ナル人ニヤト閑暇ニ當

時諸記傳ニ據リテ捜索セシニ南朝ノ補任世ニ

傳存ナケレハ速ニハ知レカタクテ漸ク撿出シタル條

々ニ証トシ下ニ擧ケ亦其人ノ傳大凡諸書ニ散

国立国会図書館　タイトル『[正平七年綸旨]』　請求記号 WA47-7

ガラス使用

月吉叡山行幸記
春日行幸行賞條
從五位上ハ[illegible]光
資 春日行幸行
事所賞議

見セルヲモ係セテ其功蹟ヲ世ニ明著セントス

尊卑分脈

葉室宰相入道定副曾孫參議右兵衛督光顯男

葉室光資侯南朝出羽守

南山小譜 谷森種氣 葉室光顯男光資出羽守 民部卿左大

辨權大納言正二位

按ニ尊卑分脈并南山小譜兩書トモニ光資卿出羽守ヲトナ

スモノ恐ク誤ナラン父葉室光顯卿元弘三年陸奥守顯

家卿任陸奥守奥州發向ノ時光顯卿秋田城ヘ出羽守ニ任シ

テ後延元二年五月出羽國ニテ殞命 南朝編年記畧引補任トアレハ尊卑分

脈轉寫ノ際父光顯卿ノ註ヲ下ナル子光資卿ノ註ニ誤寫セシ乃

任官

今據行宮公卿表記光資任官叙次左

行宮公卿表 南將遺文付錄 此表起延元二年終元中六年

正平十八年三月右大弁正四位上 參議弁如元 南朝補任

同 廿年五月 轉左大弁

同 廿一年正月 叙從三位

同 廿二年二月 任權中納言 天授可合 南朝補任

同 廿四年正月 兼民部卿 南朝紀傳 信濃宮公卿 新葉集

文中元年四月 叙正三位 南朝補任

同 三年正月 轉正

天授二年 叙從二位

弘和二年十月 任權大納言民部卿如元

元中六年二月 叙正二位

国立国会図書館 タイトル『[正平七年綸旨]』 請求記号 WA47-7
ガラス使用

左ニ掲クル文書ハ余カ所藏文書ニ先タツヿ一年ニ南山行宮
ヨリ東寺ニ執達シタルモノニテ此時院ニ藏人弁宮兄ヿ明ナリ

備後國大田庄地頭職任先度　綸旨知行畢有
相違之由可令下知高野山金剛峰寺給者
天氣如此仍言上如件　光資　沒煙謹言
正平六年十月廿七日　右衛門權佐判
進上東寺長者僧正御房　高野山藏　幸將遺文卷之

南朝編年紀畧　田口榮齋平尚重編

正平七年閏二月廿一日藏人右衛門權佐光資自八幡為勅
使入京謁左大臣公賢公以持明院殿三院并官々可幸
八幡由被示依公賢此旨被申入公賢進一車四至同載
北畠中納言顯能卿為路次警固參候今日三院幸東
寺御供山科中將教言北面前右衛門尉康兼計也廿二日
奉移八幡　此條引園太曆

大日本史

正平七年閏二月十七日乙丑使源顯能右衛門權佐藤原光
資詔左太臣藤原公賢迎光嚴院光明院崇光院
及直仁親王抵男山行宮　此條拠園太曆東寺長者補任等諸書

巡狩録引 編年記
畧興福寺東院見次
兵粮ヲ運送事
吉野執行某越智
某ト合体武家ニ心
ヲ寄ル由嚴密ニ沙
汰スヘキ事
坊人ヲ催シ八幡ノ後
誥ニ參ルヘキ事

又南朝編年記畧
正平七年三月廿三日 勅使雅光資參ヲ條々御返事云
御料足事夕即被遣二千疋於勅使宿所處乏之間
持參雖義之由申之間御使良空此外近日沙汰
難注之處去候者先可給二十貫文申候間頒朝被
遣ヲ云々嗚呼南方ノ御有儀如此歟二十貫文ノ錢ヲ奈
良ヘ請ハセ給フニ至レリ 信景所引恐南都一乘院古記歟

新葉集秋部
文中四年内裏
五十番歌合ニ
名遊憶恋を
恨おし若葉の
摺衣のうすくてふ
ちきこ色をみせ
たるや
天授二年四月於吉野
内裏歌合興行 民部
卿光資 百番 陪之
清蔭按光資任中納
言兼民部卿執元
年十二月

一乘院門跡傳 玄円法親王後醍醐十三皇子南朝紹運録 玄円法親王二品興福
寺別當一乘院門跡入室

又南朝編年記畧
正平廿五年十月征東將軍宗良親王籠信州大河内城
中納言光資卿随之 時兼民部卿

新葉集春部 中務卿宗良親王選 中納言光資
焼捨の山北山風よ雪きこて月すみまこと更拜
のくも
天授元年十二月於吉野内裏催五百番歌合 中納言光資陪之 巡狩録引 晋書
同集
天授元年内裏歌合時舅を
聞ていそいとこ清さこそれ 時舅初音斗也

[illegible]

南朝編年記略

天授五年春宗良親王入吉野行宮信州多叛高坂
高宗獨有志依以民部卿光資令護大河内城自至
行宮

同書

天授六年十月信州大河原城没落民部卿光資
皈吉野高坂高宗降武家

同書

元中九年閏十月主上并皇太子還幸洛西大覺寺
殿供奉公卿關白又〻實右大臣長親内大臣公長右大
將顯泰春宮大夫師兼權大納言光資權中納言成
直為忠邦光守房左中將滿雅頭弁資茂左中弁
光國少納言雅顯以下衛府諸司百官各戎衣

国立国会図書館　タイトル『[正平七年綸旨]』　請求記号 WA47-7
ガラス使用

光資為南北和睦
勅使對面義詮

正平廿二年 北方貞治六年 少外記中原師守記ニ四月廿九日今
日申ノ刻南朝ノ勅使葉室中納言光資卿別當參向武家
第依和睦治定也光資卿四方輿云々鎌倉前大納言
於寢殿對面云々 清蔭義詮 首書云後ニ聞南朝綸七日
持向之處□降參□氣□損氣□
問答云々大對以外參差云々合体之儀破了佐々木
判官入道道譽突鼻云々為之如何 中略 南方勅使
光資卿今月二日下向武家以外腹立七八月之間可攻
申之由大樹被申云々是降參之由被載之又天氣
之由被載之間參差由大樹被申云々光資卿可參
殿下之由雖令申武家以外□間有其憚不可
參之由内々以道仙被仰之 六月九日傳聞今日

楠木代官河邊對面鎌倉前大納言南方和睦之
故歟引出追以安東被送遣云々 七月廿九日 清
津掃部頭能直為武家使節參南朝若黨十
余騎着行騰云々 八月九日傳聞今日清津掃部
頭自南方歸洛云々於南朝料馬一匹引
賜之楠木無對面鎧一裝束馬一疋引之和田馬一
匹腹卷一引之云々 下略 十ド見エタレド此度モ亦事
行ハレザリシカ此冬々十二月七日足利義詮逃去シ是正平
廿三年三月十日後村上天皇崩ナリ 中略 正平廿四年正
月々楠木正儀叛キテ足利氏ノ方入トナリタリ

右谷森善臣氏述嵯峨野此露所引用少外記中原師守記

前ニ新葉集ニ收メタル光賢卿ノ歌二三首ヲ擧テ
テ其事跡ノ証トセシカ尚光賢卿ノ詠歌中其北
都收復ノ志操詞中ニ溢ルヽモノ亦其經歷ノ趾見ルヽ歌
一二首ヲ摘錄ス

新葉集
百敷や大内屋まのさくらも咲てや君
乃みゆきまほらん
同集五百番歌合ニ
[illegible]
[illegible]
兵部卿親王家にて百首歌まみ侍りけるに
中ハ
心なきゝ伊勢をのあまも境風の身に
志むよりまや秋をしるらん
此他五六首尚集中ニ載ス今畧

国立国会図書館　タイトル『[正平七年綸旨]』　請求記号 WA47-7
ガラス使用

尊卑分脈光定子
五藏辨頭參議
從三位右兵衛督

光資父光顯事跡詩書散見附于下

尊卑分脈

葉室光顯建武二年久々於出羽國斬首

依天下之事

南朝編年記畧

元弘參年十月十日陸奥守顯家親任國參議出羽

守光顯朝臣宜為秋田城勢宣下

南山少譜

藤原光顯參議從三位秋田城外出羽守延元元年五

月廿一日於任國被斬年廿九

南朝編年記畧

延元二年五月廿六日於出羽國〻司前參議光顯仰為凶

徒殞命 去廿一日由也

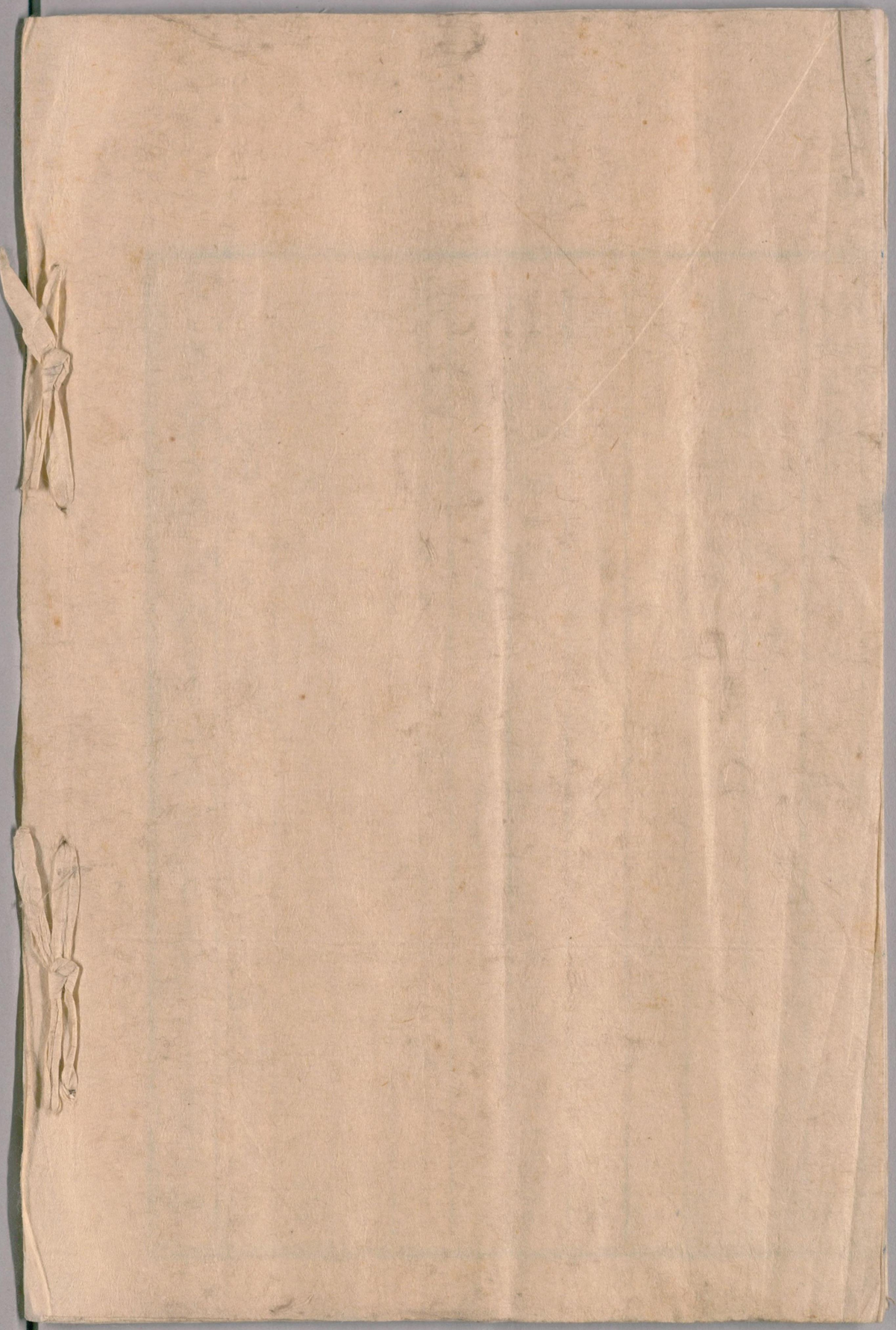
西山三鈷寺示淨上人 西山七世名隆空

山城名勝志引第八世示導上人仁空上人記云和尚示導
開山之地遺身留住砌也前住示淨同點墳塔於斯地
據此文ハ示淨者仁空ノ前住也亦示導上人謚廣惠和
尚後醍醐帝國師此等ノ因縁ニヨリテ後村上天皇
京師收復ニ際シ寺領安堵ノ綸旨ヲ賜ハリシナル式
又三鈷寺記畧云西山三鈷寺本号往生院然ニ慈鎮和
尚已後為官寺恒祈宝祚延長乃上巻数云々
同寺文明十年善空上人置文云後醍醐院山鳩色淳文桐竹御衣
并綸旨第八世廣惠和尚被下則上下之律衣被用云々
此置文ヲヨリテ後醍醐帝ノ示淨和尚御信仰アリテ因賜
御衣等ノ栄アルヲ以テ継体ノ後村上天皇住吉行在所

ヨリ先帝ノ御信縁アリシ南禅寺及随心院當三鈷
寺等ニ給リシナラン南禅寺及随心院両綸旨共ニ
右衛門権佐光賢卿之ヲ奉ハル其綸旨ノ文ハ今畧
シ又

国立国会図書館　タイトル『[正平七年綸旨]』 請求記号 WA47-7

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『[正平七年綸旨]』　請求記号 WA47-7

ガラス使用